

## 日本物理学会 2019 年秋季大会

### 領域 10 誘電体分科インフォーマルミーティング 議事録 (案)

日時：2019 年 9 月 11 日 (水) 17:00~18:00

場所：岐阜大学柳戸キャンパス B22 会場 (参加人数 22 名)

進行：領域 10 誘電体分科運営委員 堀部陽一 (九州工業大学)

書記：領域 10 誘電体分科運営委員 符 徳勝 (静岡大学)

1. 領域 10 運営会議 (2019 年 6 月 7 日 (金)) の議事について、報告があった。

- ・ 領域 10 内学生優秀発表賞の合計 3 回発表条件について、議論があったとの説明があった。誘電体分科運営委員が草案を作成し、それを元にして各分科で意見を集約することとした。
- ・ 座長への予稿原稿配布について説明があった。各分科運営委員からメールで事務局に予稿原稿配布を依頼し、事務局よりメールで座長宛に PDF 予稿集を送付することで対応することとした。本大会において誘電体分科にその対応ができた。
- ・ 女性研究者のための新しい賞の設立について、説明があった。
- ・ 領域長池田先生より物理学会に依頼し、運営委員に感謝状を贈るとの提案があった。

2. 次々期領域運営委員について

- ・ 次々期領域運営委員 (2020 年 4 月~2021 年 3 月) として、安井慎太郎 氏 (東京工業大学) が推薦・承認された。

3. 学生優秀発表賞について

- ・ 発表賞の歴史的経緯と他領域での状況などについて、説明があった。
- ・ 領域 10 内での合計 3 回発表の条件を緩和するかどうかについて、現行 3 回および発表回数を 2 回、1 回にする変更案が提示され、活発な議論があった。
- ・ 賞の趣旨を維持する多数意見があった。
- ・ 賞の価値をある程度に維持する多数意見があった。
- ・ 学生発表をプロモーションすることや修士学生の進路・奨学金の免除などにもメリットを与えるように配慮すべきとの多数意見があった。
- ・ 努力が認められるような賞になってほしいとの学生意見があった。
- ・ 以下の合意ができた。
  - ・ 発表回数を 2 回にする。筆頭者として、過去発表 1 回 (口頭発表もしくはポスター発表) と受賞時口頭発表 1 回とする。

- ・ 審査はこれまでの方法で行う。
  - ・ 2021年春大会より施行できるように手続きを進める。
  - ・ 受賞人数について、誘電体分科は最大2人程度とする。
3. 物理学会の改革について、領域代表池田先生より報告があった。
- ・ 参加者数が年々減っていること、開催場所の確保も年々厳しくなることなどが紹介された。
  - ・ 開催経費を軽減するために、大会プログラム印刷冊の廃止となるとの説明があった。
  - ・ 今後、総合講演と平行に一般講演などが同時に行われることが可能となった。総合講演に参加できない参加者のために、総合講演のオンライン配信などを措置する。
4. シンポジウム開催状況について
- ・ 近年の開催状況について、説明があった。今大会に開催はなかったが、75回年次大会で君塚 肇 先生(阪大)より「ミルフィーユ構造の材料科学」に関する提案のほかに、池田先生らは他領域と共同でもう一件提案を努力する説明があった。
5. 領域10：正副代表・運営委員について
- ・ 2019年度領域10の正副代表および各分科の運営委員の紹介があった。次期領域副代表についても、意見交換があった。
6. 概要提出率について
- ・ 本大会の概要提出率について説明があった。誘電体分科は94%であった。概要を忘れずに提出するよう、依頼があった。
7. 国際会議の告知
- i) RCBJSF-15（日本岡山大、2020年7月3日～7日）について、中島先生（広島大）より案内があった。
  - ii) 日韓強誘電体会議（韓国ソウル大学、2020年9月23日～9月26日）について、是枝先生（同志社大）より案内があった。

以上